

Rotary



## WEEKLY REPORT

高山中央ロータリークラブ

2017～2018 年度 高山中央 RC 会長テーマ

「いま結束のとき！ 目指そう、新たなる境地!!」

ロータリー：  
変化をもたらす

◆会長 中田 専太郎 ◆幹事 谷口 欣也

◆会報委員長 大原 誠 ◆会報担当 大原 誠

創立 1991 年 5 月 20 日

◇事務局 高山市本町1-2

飛騨信用組合本町サテライト出張所 3階

TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488

◇例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600

◇例会日 毎週月曜日 PM12:30～

◇ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

&lt;出席報告&gt;

	会員数	出席会員	出席	Make-up	会長支持率
本日 1163 回	56 名	56 名	48 名	—	85.71%
前々回 1161 回	56 名	56 名	41 名	4 名	80.36%

<点 鐘> 会長 中田 専太郎  
<ロータリーソング> それでこそロータリー  
<四つのテスト>

<会長の時間> 会長 中田 専太郎

いつも申し上げておりますように RC では、世界へ向けての人道支援をするためのグローバル補助金制度というオプションがあります。といいながら、個人的な話になりますが、先日名古屋に夕方までの用事がありましたので、1泊しまして、次の日時間を空けて、愛知県美術館は改修工事で休館中のハズだしということで、有料駐車場に車を置いて、名古屋市美術館へ行ってみたのですが何と特別休館日ということで、60 過ぎのジジイが独りで行くところか？とは思いましたが、行きたい気持ちの方が勝ったので、東山動物園に行き参りました。



中に入りますと、幼稚園児が沢山おられて、さらに気が引けたのですが、やっぱり探せばいるものですね！独りで来ているジイさまがちらほら……。一眼レフカメラをもったジイさまや、ウォーキングルックのジイさま……。面白かったのはカワウソの檻の前を文字通り右往左往するジイさまでして、そのカワウソが親父の移動に併せて優しく鳴きながら追っかけてました。そのジイさまはとても得意そうで、ちらりと私の方にも視線を向けて来たのですが、何やら話すと長くなりそうでしたので、そっと無視させてもらいました。

さて、なんだかんだいいながらもやっぱり動物には癒やされます。チンパンジー、ゴリラ、コンドル、バイソン、インド象、インドサイ、ライオン、トラ、山猫、オオカミなどなど。じっくり楽しませていただきながら、ふと気付いたのですが、そのほとんど全てが「絶滅危惧種」だという説明があるではありませんか？

身につまされたのは、環境破壊が絶滅危惧の原因の場合もあれば、サイやゾウの様に角や牙が先進諸国で高額で売買されるのが絶滅危惧の理由だという事実です。これは、それこそ人類の英知で、切り抜ければならないことだと思うのですが、ここで更に気になったのは我々日本人は大丈夫なのか？ということです。

ある学者によると、我々日本人は「絶滅危惧種」にあたる

ということです。その原因は、「少子高齢化」。学者曰く、「100 年後には日本の人口は 5000 万人と、半減してしまい、その数は対策を講じられないまま、さらに減っているだろう」ということです。

ここで問題なのは、将来の人口増大のための子供が減り続け、老人がどんどん多くなり、社会・経済の担い手となる労働人口が極めて少なくなる」ということです。

その結果、日本はゆっくりと絶滅に向かって歩みを進めていく、というのが学者の結論です。

先に申し上げましたように、「グローバル補助金事業」ですが、人道支援ではあっても、自然動物達の未来を考え、そして対象者を支援することが、日本の将来的な生き残りにも大きく繋がっていく……。ということも視野に入れて進めて行ければ理想的なのではなからうか。と、そんなことを、飼育係に叱られたのでしょうか、トラック用の大きなタイヤを持ち上げては投げるインドゾウを眺めながら考えました。

&lt;幹事報告&gt;

幹事 谷口 欣也

◎R I 本部より

・ザ・ロータリアン誌

◎国際ロータリー第 2630 地区

ガバナー事務所より

・2018 JAPAN RYLA

セミナーのご案内

日時:5月24日(木)～27日(日)

会場:神戸 YMCA 余島野外活動センター

登録料:50,000 円(3泊4日)

・財団ニュース 3月号

&lt;会報&gt;

・美濃加茂 RC



&lt;ロータリー情報委員会&gt;

委員長 足立 常孝

先週開催していた I DM の感想スピーチを中心に、昨年度と今年度入会された新会員さん方に、5 分スピーチをお願いしました。

急遽、I DM に体調を崩された新会員さんがみえて、I DM を延期にしましたので、スピーチテーマは、全く自由でお願い致しました。



## <新会員スピーチ>

### 阿部 眞澄美

テーマは「ロータリーに入会して1年8ヶ月を振り返って」です。

1年8ヶ月を振り返り、心に残っていることが2つあります。

まず一つ目は、一昨年、約1500名が参集した地区大会です。私の関心は、そのビッグな大会運営でした。指揮運営や協力体制がどのようになされるのか、皆さんのモチベーションは一致しているのだろうかなどに思いを馳せながら参加させていただきました。なにせ、上下関係のない経営トップばかりでの運営なのであります。

期待を裏切ることなく大会は各自役割の中で、ベストな活躍をされ、まさに歴史に残る盛大、且つクオリティの高い運営を目の当たりにできました。心から敬意を表した次第でございます。

そして、私の心に最も強く残っているのが、二つ目の出前講座です。もちろん私には初めての体験です。

まず、驚いたのが体育館にたくさんのロータリーの皆さんが参加されていたことです。メンバーの皆さんは、子供たちと地域の未来のためにという使命感と、そしてご自身の経営や人生に誇りを持って講座に臨んでいらしたのではないのでしょうか。

この日、講話を聴いた中学生たちの記憶に刻まれ、これからの人生にきっと影響を与えることと信じます。と同時に、皆さんはいったいどのような講話をされたのかという関心が湧いてまいりました。

そこで、最後に私はこんなことを考えてみました。

例会にあつたらいいなこんな企画。

それは、「出前講座の前に、手前講座」という企画です。経営理念や社是、人生観、お金の儲け方、私はこれで失敗しました、などなど。

今日のようにお一人5分でもいいと思います。

1ヶ月に2回、1回2人、12ヶ月で48名のお話が聴けます。

宮本武蔵の著者、吉川英二は、本の中で『我以外は皆我の師である』と記しています。

ロータリーの皆さんは人に教える方が多くなってきた年代であると思います。これだけたくさんのロータリーという場の朋輩方のお考えを是非是非お聴きするチャンスがあれば、かけがいの無いものが学べるのではないかと思います。

以上、歳はとつても、若い文字の入っている若輩者のスピーチをご清聴下さいまして、ありがとうございました。



### 直井 泰司

今、私は一つのプロジェクトに参加しています。

それは「飛騨の赤松が育てる、森・人・伝統建築〜どこかで途切れた、松への敬意〜」というタイトルです。

安価で加工・製材に手のかからないスギやヒノキなどに比べ、赤松は曲がり強く乾燥が難しいため、一般住宅ではコストがかかる等のことから敬遠されています。また、昔は天井の梁(はり)に使用されましたが、今ではそのような梁を使う住宅が減ったことも要因の一つです。実は飛騨の赤松は目が細かく、材木としては非常に優れているのです。飛騨は赤松が多く、しかも標高が高く雪も多い



ため成長がゆっくりで木目が細かく、強度的にも優れている事で全国的にも有名なのです。

また、雪が多い地域の為、雪の重みなどで自然と複雑に曲がりながら伸びてゆきます。そんな曲がりの強い材木は需要も少なく敬遠されます。また、その様な木材を加工できる職人さんも減っています。現状では赤松は伐採されても行き場が無く、パルプ(紙の原料)やチップとして燃やされてしまっているのが現状です。

私も仕事の現場で赤松を伐りますが、いつも「もったいなあ」「なぜ用材として使えないのだろう」と松に対して申し訳なく思っていました。しかも自分より歳を重ねた大先輩なのに…。

そんな矢先、飛騨市森林組合の知人から電話があり「赤松を生かすプロジェクトを計画しているのですが、助けてもらえないですか」という話でした。

計画している内容をうかがうと、大阪の住宅建設会社や材木店が飛騨高山高校の演習林の赤松を使い、施主さんが自ら選んだ木を飛騨高山高校環境科学科の生徒たちに伐採してもらい、それを大阪の材木店に運び、自然乾燥させて数年後に建築に使ってもらうという、自分が伐った木が最後はどのように使われているのかを見ることが出来て、興味を持ってもらう事も一つの目的と内容でした。

こだわりもあり、飛騨の良質な赤松を自然乾燥させ、曲がりを生かして住宅の梁に使う事です。自然乾燥もこだわりで強制的に乾燥させた木材と自然乾燥させた木材とでは、ねじれや強度、ツヤまでも違うそうです。

大阪の建設会社の棟梁のこだわりで、どんな木材も無駄にはしないという気持ちに共感しました。また、飛騨の木材が全国各地で有効に使われて喜ばれるという事も嬉しい事です。何だかんだで楽しそうなので参加することにしました。

飛騨高山高校山田キャンパスの先生方をお願いして、1月17日に教室にて生徒達に事前授業を行いました。1月27日は現場にて大阪の大工さん、建設会社さん立ち合いのもと、生徒達に伐採の講習をかねて、実際に伐ってもらいました。

生徒たちは雪の中の作業は初めてなのと、今回の大きさ(直径40cm)の立ち木を伐るのは初めてで、おっかなびっくりチェーンソーを使っていました。しかし、自分たちが伐った木が倒れると、とても表情が明るくなり、満足気な顔をしていました。次は雪が解ける前に、切った赤松を運び出す作業です。梁にするには、8~10mの長さが必要です。そのような長材をどのように運び出すかが次の課題です。今回は10トントラックの運べる長さ8.5mに伐りましたが、大阪まで運搬してくれる業者を探すことが最大の課題です。

今回だけでなく、今後も継続できるようにこのプロジェクトを成功させたいと思います。

### 益田 大輔

みなさんこんにちは。

いつも大変お世話になっています。

須田病院精神科医の益田大輔です。

福岡の博多から、愛媛大学で勉強し、(殆ど演劇活動とパチスロに没入した6年間でしたが)当時、精神分析ラカン派の最後の砦と言われた小出教授の岐阜大学精神科教室に入局したご縁で、関連病院への派遣という形で2001年から高山に寄せて頂いております。

「益田くん、1年だけ高山日赤に行ってくれ」と懇願され、得意の安請け合いをしたわけですが、1年延び、そして1



年延び、現在に至っています。すでに小出教授も退官久しく、医局人事からも離れておりますが、高山の文化度の高さや、圧倒的な食の魅力、活動フィールドの寛容性や精神科として働きやすい土壌、実家の相続のゴタゴタなども色っぽく絡まって、いまや自動更新の 18 年目に突入せんとしております。

さて、「なぜ、精神科医になったのか」と聞かれることもあります。これは演劇をやっている延長線上に精神科医があったからだと考えています。一舞台の演出か、人生の演出か、それが問題だーという仰々しいですが、演劇と精神医療には実は共通点も多く、ともに「目に見えないもの」を扱う魅力があります。お困りの身体の症状は、原則、自己申告的要素があり、例えば「落ち込み」であれ、「頭痛・腹痛」、「不眠」であれ、血液検査などで数値化して比較することは困難です。演劇界には「正しい理解より好意的な誤解」という金言があり、音楽などもそうですが、正しい音楽、正しい演劇、正しい芸術という「正しさ」を求める以前に、好意的な受け手による好意的な解釈が存在するのでは、という概念です。精神科医になった今、「正しい人生」より「好意的な人生」に沿える、そんな演出家を目指しているわけです。それが問題ですが。

ー「最も良く奉仕するもの、最も多く報われる」最も出席するもの、最も報われる」ーロータリーに入って最も印象的な言葉です。何かを成し遂げるには、何かを成し遂げた成功者と知り合いになると良い、という引き寄せの法則は一つの真理であり、まさにロータリーはそういう大義を内包した組織体なのかもしれません。先の新会員研修セミナーで、岡田信春パストガバナーがおっしゃった、「I serve と We serve の違いが R と L の違いだ、それが大問題だ」というフレーズが印象的で、青年会議所あがりの小生は、未だ We believe でしたので、このあたりの大義の違いを先ずは噛みしめたいと思います。まだまだ未熟者で恐縮ですが、今後ともご指導ご教授のほど、宜しくお願い致します。

## 小出 貴博

本日スピーチさせていただきます前に、まず、先日行われました I D M を体調不良により欠席してしまい、情報委員長の足立さんはじめ、副委員長の島さん、委員の剣田さん、伊藤さん、三枝さん、また一緒に参加するはずであった益田さんには大変ご迷惑をお掛け致しました。メンバーがすごい方ばかりなので、大変楽しみにしていたのですが、本当にすみませんでした。

本日お時間をいただき、テーマは自由という事で、私は昨年 7 月に入会して、今月で 9 カ月になります。少しでもご理解頂けたらと思い、私の体験談をお話させていただきます。

ここにいらっしゃる皆様は、もういろんな国、外国に行かれています事と思います。そんな皆様にも、初めてはあったと思います。そう！初めての海外旅行を皆様に少し思い出して貰いたく、今日は私の初めての海外旅行をお話させていただきます。

時は大学 4 年生。卒業旅行で初めて海外に行くこととなりました。友人 4 人で日本を旅立ち、ロサンジェルスで入国審査を受け、国内線に乗り換えニューヨークを目指しました。もう夜中の 0 時を回っているのに煌々とネオンが輝き、街には黄色いタクシー、イエローキャブがバンバン走っており、マンホールからは白い蒸気が上がり、後ろを振り返れば、ブロードウェイで有名なタイムズスクエアビルが光

っていました。本気の映画の中の世界でした。テンションは最高です。

街中を抜けホテルに到着しました。チェックインしようとしたら、0 時を回っているのでキャンセルされているとの事。「もう満室です」と。トラブル発生です。

現地ガイドさんが、交渉してくれ、ツインは満室でしたがダブルなら 2 部屋あるという事で、男 2 人で 1 つのベッドで寝ました。当然、次の日には、ツインに変えてもらいました。

ニューヨークでは、エンパイヤーステートビルを見たり、自由の女神を周遊したり、5 番街でショッピングをしました。

一つの目的であったメトロポリタン美術館。セントラルパークに面しているので、みんなでサブウェイで行こうとした時です。地下鉄に降りる階段の踊り場に黒人さんが座り込み片膝を立てています。そうです、地下の駅に降りるのに通行料が発生しそうでした。慌てて通り向かいに地下数口に行くとそこは誰もいなかったので無料でした。

メトロポリタン美術館は大変すばらしく、時間が足りなくなりました。また行きたいです。

また、夜に歩いていると、会ったこともない兄弟が後ろから現れ、肩を組まれ「ヘイブラザー ヘイブラザー」と 5 セント等が入ったカップを見せてきます。財布は決して出さないよう、ポケットに小銭をこんな時用に用意してある 5 セントを入れるとすんなりと帰って行きました。困ったことや怖いこともありましたが、初めての海外ニューヨークは刺激的で、楽しかったです。

皆さんも、初めての海外旅行を思い出して頂けたら幸いです。

## < 3 月のお祝い >



お誕生日を祝して

### < 会員誕生日 >

堀口 裕之	S 4 1 年	3 月 9 日
渡辺 修治	S 2 6 年	3 月 1 2 日
長瀬 栄二郎	S 4 9 年	3 月 1 3 日
久々野 国良	S 2 3 年	3 月 1 9 日
岩本 正樹	S 3 5 年	3 月 2 1 日
海老沢 玲子		3 月 2 3 日

### < 夫人誕生日 >

中田 学	康予	3 月 3 日
大原 誠	朋子	3 月 6 日
剣田 廣喜	恵子	3 月 1 3 日
久々野 国良	光枝	3 月 1 4 日
高原 清人	美奈子	3 月 1 5 日
仲谷 政美	幸子	3 月 2 0 日
小出 貴博	幸子	3 月 2 0 日
三枝 祥一	敏江	3 月 2 8 日
新井 信秀	知子	3 月 3 0 日

### < 結婚記念日 >

井ノ下 雄志	H 1 8 年	3 月 9 日
新井 信秀	S 5 4 年	3 月 1 0 日
小出 貴博	H 1 3 年	3 月 1 0 日
大保木 正博	S 5 8 年	3 月 1 3 日
永井 信次	S 5 0 年	3 月 1 6 日
高原 武夫	S 4 7 年	3 月 1 9 日
三枝 祥一	S 5 4 年	3 月 2 6 日

おめでとうございます

<ニコニコBOX>

出席/プログラム委員会より、本日、久しぶりに 80%を超えました。暖かくなって来たからかなあ。次は、ボウリング大会を企画中です。ものすごく豪華な賞品を準備中です。また、へたくそな人、スポーツオンチな人、女性の方などには、ものすごいハンディを考慮中です。全員参加をお願いします。

橋本 修

先週末は、名古屋へ講習会がてら映画も観てきました。今話題の「シェイプ オブ ウォーター」「スリー・ビルボード」の 2 本立て。学生時代の日活ロマンポルノ以来の 2 本立て。アカデミー賞は今頃決まるのかもしれませんが、私的にはスリー・ビルボードに 1 票！

鷲塚 英雄

4/19 (木) 開催の福祉協会のふれあい高山寄席のチャリティー券を預かっております。何人かの方を買って頂きましたが、まだチケットがありますので私までお尋ねください。

伊藤 正隆

妻の誕生日にお花をありがとうございました。本当に助かります。

中田 学

ニコニコへのご協力をお願いします。

周 信夫

すいません。本日も早退させていただきます。西倉 良介